

概観

【政治・社会】

欧州委員会が司法・内務改革評価の中間報告書を発表、ハイレベルの汚職・組織犯罪追放のためさらなる努力が必要と勧告した。野党はこれを受け、国民議会に内閣不信任決議案を提出したが、与党議員の支持を得られず、否決された。

✦ 4回目の内閣不信任決議案否決

【経済】

本年のGDP成長率は6%を越える見通し、また07年の外国投資は対前年比30%増（57億ユーロ）、失業率はEU加盟国内で最大の下げ幅（前年比）であった（5.8%）。一方、経常収支赤字は対前年比57%増（61.75億ユーロ、対GDP比21.6%）に拡大。

✦ ブルガリア・エネルギー・ホールディング（BEH）設立：南東欧最大のエネルギー企業に

【わが国との二国間関係】

✦ 草の根・人間の安全保障無償資金協力にて幼稚園の改修事業に必要な資金を供与（7日）

（巻末に、政治動向クロノロジー、経済指標を添付してありますので併せてご参照下さい。）

政治・社会

1. 内政の動き

◆司法・内務改革：欧州委員会中間報告書（4日）

▶ 欧州委員会は、ブルガリアの司法・内務分野の改革の進捗状況に関する中間報告書を発表した。

▶ 今次レポートは、07年6月のレポートに続くものであり、ある程度の改革の進展を評価したものの、ハイレベルの汚職及び組織犯罪追放につき、さらなる努力が必要と勧告している。

▶ 正式なレポートは6月下旬に発行される予定。

◆4回目の内閣不信任決議案否決（22日）

▶ 野党はスタニシェフ内閣の汚職問題への取り組みが不十分であるとして内閣不信任案を提出、21日に審議、22日に投票が行われ、賛成86、反対149票で否決された。スタニシ

ェフ内閣はこれで4回目の不信任決議をしのいだことになる。同日、国民議会前では、野党の企画したデモに酪農業者等が参加し、政府への不信任を訴えた。

2. 要人往来

◆ハンガリー大統領のブルガリア訪問（5-6日）

▶ ショーヨム大統領は、ブルガリアとロシアが1月に合意した天然ガスパイプライン「サウス・ストリーム」がハンガリーまで延長されることを希望すると述べたのに対し、パルヴァノフ大統領は、同パイプラインがハンガリーを通過するようブルガリアとして働きかけていく用意があると応えた。

◆首相：初のモルドバ訪問（14-16日）

▶ スタニシェフ首相は、ブルガリア首相として初めてモルドバを訪問、タルレフ首相と会談、

ヴォローニン大統領を表敬した。

▶ビジネスフォーラムも開催され、モルドバ企業約60社とブルガリア企業約40社が参加。両国の貿易額は、2007年1～11月の期間で約100万ドルに留まっており、今後の発展が期待される。

▶また、スタニシェフ首相は、1万人以上のブルガリア系住民が在住するモルドバ南部のタラクリア地方を訪れ、住民と懇談した。

◆首相：スロベニア訪問

(21日)

▶スタニシェフ首相は、今年前半のEU議長国であるスロベニアを訪問し、ヤンシャ首相と会

=====

経済

1. エネルギー

◆ブルガス・アレクサンドロポリス石油パイプライン計画に関する住民投票

(18～19日)

▶ブルガス市は本計画の是非を問う住民投票を実施したが、投票率は27.09%にとどまった。

▶投票者の96.75%が環境保全の観点から本件計画に反対票を投じたが、そもそも市レベルでの住民投票には地域をまたぐ国家プロジェクトに関して法的拘束力がなく、また一般に住民投票として有効となるための過半数の投票率も満たされていないかった。

▶ガガウゾフ地域開発・公共事業大臣は「(今次住民投票の結果は、)本プロジェクトに何ら影響はない。」と述べた。

ブルガリア・エネルギー・ホールディング設立

◆南東欧最大のエネルギー企業に

(21日)

▶ブルガリアの5つのエネルギー関連企業、電力公社・ブルガルガス・コズロドイ原子力発電所・マリッツァ・イースト2火力発電所・マリッツァ・イースト鉱業を統合し、ブルガリア・エネルギー・

談した。両者は、コソボ問題やリスボン条約の批准について協議。スタニシェフ首相は、ブルガリアが3月末までにリスボン条約を批准する予定であると述べた。

3. 南東欧安定協定(SP)地域会合開催

(27日)

▶ソフィアで南東欧安定協定(SP)地域会合の最終会合及び同地域会合を引き継いだ地域協力評議会(RCC)の発足会合が開催された。

ホールディング(BEH)が設立される。

▶BEHは40億ユーロの資産を保有し、年間18億ユーロの売上げを誇る南東欧最大のエネルギー企業となる。当初の収益は1.14億ユーロと見込まれる。

◆ナブッコ・プロジェクトに6番目のパートナー：独RWE(5日)

▶カスピ海の天然ガスをロシアを迂回して欧州へ供給するナブッコ・プロジェクトに6番目のパートナーとしてドイツのRWEが参加することとなった。

▶またディミトロフ経済・エネルギー大臣は7番目のパートナーとしてフランスのガス公社の参加を支持すると述べた。なおRWEはブルガリアのベレネ原子力発電所におけるシェアホルダー候補としても応札している。

2. 投資環境

◆外国人労働者導入へ

(15日)

▶繊維産業・輸出組合は、アパレル産業における労働力不足解消のため、5月にベトナムから第一弾約60人の労働者を受け入れると発表。

▶ブルガリアの繊維産業には約16万人が就業、平均賃金は約265レバだが、ゼコヴァ同組合会長によると、同賃金は社会保険料対策のための架空の数字で、実際の平均賃金は450レバ、最も成功している所では800から900レバになるところもある由。

◆ドナウ川第二架橋建設に遅れ

(20日)

▶ドナウ川第二架橋設計が約4ヶ月遅れており、完成は2010年4月30日になる模様。工事着工は本年4月となる予定。

3. マクロ経済

◆経済予測

(13日)

▶当地シンクタンクCEDは、本年のGDP成長率は6%を越える見通しと発表した。07年第4四半期のGDP成長率は減速し、年平均で5.5%と見られているが、本年は堅調な外国投資に支えられ製造業・サービス業が躍進し、大型インフラプロジェクトもあり、持ち直すと予測した。ただし、外国投資を引き続き誘致するためには、産業構造の転換と投資環境の一層の整備が必要と指摘している。

◆経常収支赤字が拡大(18日)

▶07年の経常収支赤字は対前年比57%増の61.75億ユーロであり、対GDP比21.6%にもなると中央銀行が発表した。

▶専門家は、発展途上経済において高い消費による経常収支赤字はよくある事であり、問題ではないと見ているが、フィッチ・レーティングスはリスク要因と見て1月に格付けをニュートラルからネガティブへ落としている。

▶オレシャルスキ財務大臣は厳格な財政政策と高い外貨準備高により、外的リスクにも対応が可能であると述べている。

◆外国投資がさらに拡大

(22日)

▶外国投資庁は、07年の外国投資は57億ユーロであり、対前年比30%増であったと発表した。投資庁は改正投資促進法のもと、製造業、ハイテク産業、医療、エネルギー分野への外国投資誘致を行っている。ニコロフ・マーケティング課長は、4月より雇用促進法が改正され、従業員の10%まで外国人を雇用できるようになり、熟練労働者不足の解消が図られると述べた。

◆失業率(4日)

▶ユーロスタットの発表によると、ブルガリアの07年の失業率は5.8%であった(06年は8.2%)。これはEU加盟国内で最も大きな下げ幅となる。なおEUの失業率は6.8%。

わが国との関係

1. 要人往来

◆観光庁長官訪日

(5～8日)

▶クルシュコヴァ長官は南東欧観光促進ワークショップ(外務省主催)に出席するため訪日。

2. 経済協力

◆草の根・人間の安全保障無償資金協力にて幼稚園改修事業に必要な資金を供与

(7日)

▶スモリーヤン市ラドスト第4幼稚園の建物改修のための無償資金協力の署名式を行った。

▶わが国はこれまでブルガリアの教育・医療機関の改善、社会的弱者の救済等のため、総額2億5,580万円余り、約174万ユーロを上回る計60件のプロジェクトに対し、草の根・人間の安全保障無償資金協力を実施している。

◆日ブルガリア教育文化センター開所式

(21日)

▶平成18年度草の根無償資金協力にて実施されていた、ソフィア第18総合学校『ウィリアム・グラッドストーン』日本ブルガリア教育・文化交流センターの整備が完了し、同校にて行われた開所式に竹田大使が出席した。

◆横浜市保土ヶ谷区、ソフィア市と都市間交流

▶2月下旬、保土ヶ谷区とソフィア市は「横浜市保土ヶ谷区とソフィア市との教育・文化・スポーツなどのパートナー都市協定」を締結、今後は両都市間で様々なプログラムが行われる予定。

ブルガリア政治・外交・社会動向

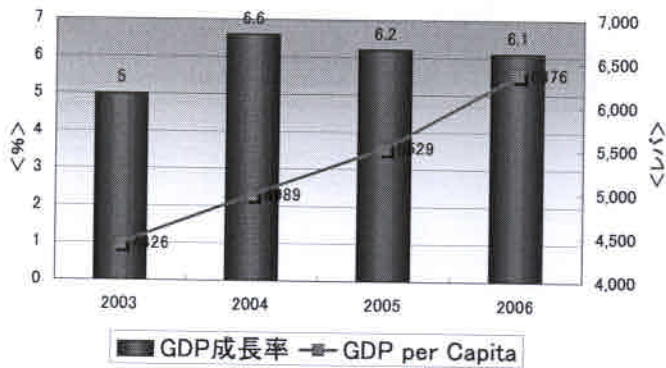
(平成20年2月)

在ブルガリア大使館

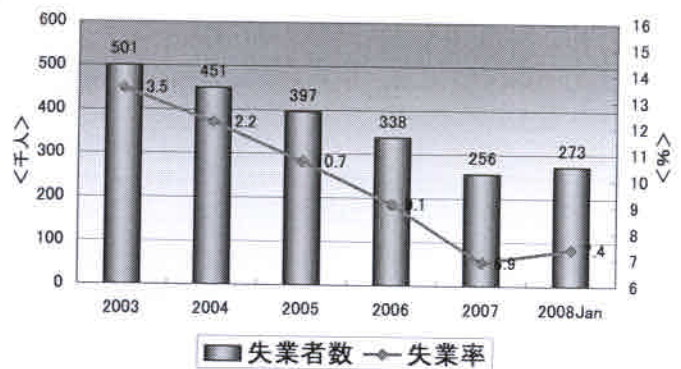
- 4日** 欧州委員会より、司法・内務分野の改革の進捗状況に関する中間報告書が発表される。ハイレベルの汚職及び組織犯罪との闘いに関して、さらなる努力が必要と勧告される。
- 4日** ルーマニアのオルバン運輸相、ヴァルナ（ブルガリア東部）を訪問。ムタフチエフ運輸相とドナウ架橋計画等について協議。
- 5－6日** ハンガリーのショーヨム大統領、ブルガリアを訪問。パルヴァノフ大統領、ピリンスキ国民議会議長、スタニシェフ首相と会談。
- 7日** カビル農業・食糧相、農業機器関連の見本市視察のため、ギリシャのテッサロニキを訪問。コントス農業発展・食糧相と会談。
- 7－8日** ブリズナコフ国防相、NATO国防相会合出席のため、リトアニアを訪問。
- 10－11日** ペトコフ内相、ノルウェーを訪問。ストールベルグ法務・警察相と会談。
- 11－12日** カルフィン副首相兼外相、EU・アラブ連盟外相会合出席のため、マルタを訪問。
- 12日** オレシャルスキ財務相、EU経済・財務相理事会出席のため、ブリュッセルを訪問。
- 13－14日** カルフィン外相、黒海シナジー外相会合出席のため、ウクライナを訪問。
- 14－16日** スタニシェフ首相、モルドバを訪問。タルレフ首相と会談。ヴォローニン大統領を表敬。ブルガリア・モルドバ・ビジネスフォーラムに出席。
- 18日** カビル農業・食糧相、EU農漁業理事会出席のため、ブリュッセルを訪問。
- 18－19日** カルフィン外相、EU総務・対外関係理事会出席のため、ブリュッセルを訪問。
- 21日** スタニシェフ首相、スロベニアを訪問。ヤンシャ首相と、コソボ問題、リスボン条約批准について協議。
- 22日** 野党は汚職問題への取り組みを不足として内閣不信任案を提出したが、反対多数で否決された。国民議会前では政府への不信任を訴えるデモが行われ酪農業者等が参加。
- 27日** ソフィアで南東欧安定協定（SP）地域会合の最終会合及び同地域会合を引き継いだ地域協力評議会（RCC）の発足会合が開催された。

ブルガリア経済指標(2008年2月)

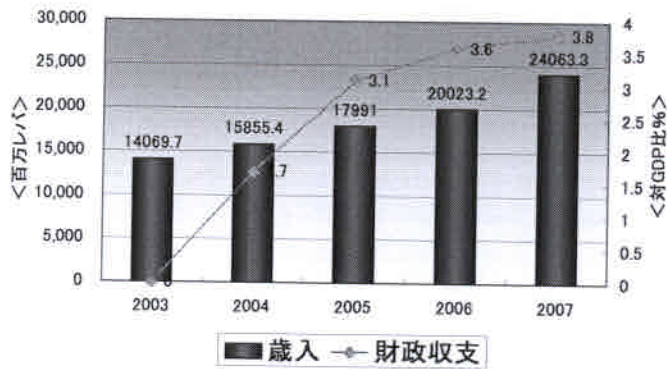
GDP成長率と一人当たりのGDP



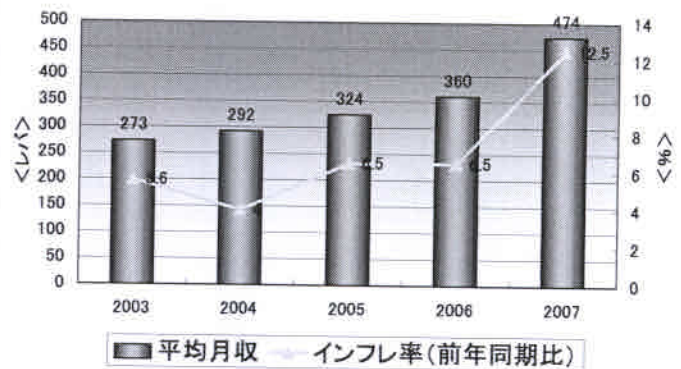
失業者数及び失業率



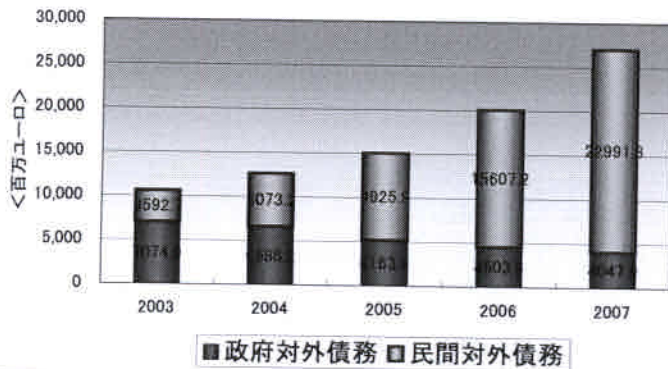
財政収支



インフレ率と平均月収



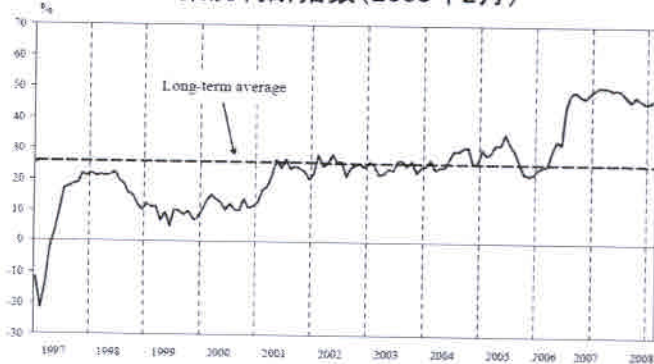
対外債務



貿易赤字と外国投資



業況判断指数(2008年2月)



ブルガリア株式市況(SOFIX)

